

高速交通ネットワークの安全対策の強化を求める意見書

県民の暮らしや産業経済活動を支えるとともに県内外との交流を図り、災害時におけるリダンダンシー機能を確保する上で社会資本の整備は必要不可欠であり、本県においては、格子状骨格道路の整備や、奥羽・羽越新幹線の実現など、広域交通ネットワークの構築に向けた取組みを進めているところである。

こうした中、本県と首都圏とを結ぶ大動脈である山形新幹線では、大雨、大雪、強風、野生動物との衝突等による輸送障害が多発しており、国内有数の鉄道難所である福島～米沢間における安全性及び安定輸送の確保が喫緊の課題となっている。

東日本旅客鉄道株式会社の調査結果によれば、同区間に全長約23kmのトンネルを整備することで、輸送障害件数の低減、地滑りや雪崩等の災害リスクの完封など、防災面の強化が図られることが示されており、その早期事業化に向けて検討を進めているが、莫大な事業費を要することが課題となっている。

一方、本県的高速道路等には、橋梁区間やトンネル区間が多く、冬期間におけるスリップ等による重大事故が発生しており、こうした箇所の安全性向上が喫緊の課題となっている。

国では、高速道路の暫定2車線区間において、重大事故につながりやすい正面衝突を防止するため、平成30年6月から、土工区間へのワイヤロープ設置を進め、高速道路以外の自動車専用道路への設置も今後検討することとしているが、橋梁区間やトンネル区間への設置については、未だ実用化の目途が示されていない。

よって、国においては、本県的高速交通ネットワークにおける安全対策の強化を図るため、下記の措置を講じられるよう強く要望する。

記

- 1 山形新幹線の福島～米沢間における抜本的な防災対策を早急に講じるため、将来の奥羽新幹線を見据えたトンネル整備の早期事業化に向け、必要な財政支援を行うこと。また、事業化に向けた検討に参画し、技術面及び制度面から助言を行うこと。
- 2 高速道路の暫定二車線区間等におけるワイヤロープの設置について、土工区間への設置の早期完了に向け、取組みを加速させること。また、重大事故の発生の危険性が高い橋梁区間やトンネル区間等への設置の実用化に向け、技術開発を促進すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成31年3月13日

衆議院議長 大島 理 森 殿
参議院議長 伊 達 忠 一 殿
内閣総理大臣 安 倍 晋 三 殿
財務大臣 麻 生 太 郎 殿
国土交通大臣 石 井 啓 一 殿

山形県議会議長 志 田 英 紀